

## 第六十三回神田古本まつりの收穫（四）

土屋博

三十一「中國文學入門」吉川幸次郎著

（清水弘文堂、昭和四十八年再販、定價四五〇圓、八八頁）

古書價格三百圓也。昭和二十六年夏毎週火曜朝七時よりのNHKラジオ文化講座の放送筆録をもとに弘文堂アテネ新書として刊行を見たるものの、京都大學講壇を去るに當りての改訂版なり。

三十二「源氏物語と文藝科学 自敘傳的に」五十嵐力著

（教育社、昭和四十九年刊、五〇九頁）

古書價格五百圓也。五十嵐力（一八七四年生れ、一九四七年歿）は、東京専門學校卒、早稲田大學文學部教授。本書はその生誕百年記念出版物。戦時中疎開しつつの源氏物語の現代語譯作業を續けたる姿は感動的なり。廿二の光源氏の拾四歳紫の上と新枕する場面について、原文、谷崎譯、窪田空穂譯、そして五十嵐譯を並べ、紫式部大得意の洒落たる筆致と評價す。

三十三「儒教の精神」武内義雄著

（岩波新書特裝版、昭和五十七年刊、定價八百圓、二一三頁）

古書價格千圓也。初版は昭和十四年。読み易きワイド版なり。結語に曰く、「要するに唐以前は五經を中心とする儒教で大體に於いて一致し、宋以後は四書を中心とする儒教なり」、「我國の祖先は之を鵜呑みにせず、春秋の三傳より公羊、穀梁を排除し左傳一つに定め革命思想を排除するなど國體に一致せしめた」云々と。

三十四「頼山陽書畫題跋評釋」竹谷長二郎著

（明治書院、昭和五十八年刊、定價七千五百圓、三六六頁）

古書價格五千五百圓也。竹谷長二郎（一九一〇年生れ、東洋大學卒）は昭和四十五年に都立日比谷高校の漢文教師を退任。著者曰く、書後題跋を山陽の最も見るべき業績としたる者に徳富蘇峰あり、蘇峰著「頼山陽」のうち十六頁をこれに充てり、とぞ。

三十五「菅家の文華」清藤鶴美著

（太宰府天滿宮文化研究所、昭和六十二年三版、三三六頁）

古書價格五百圓也。初版は昭和四十六年。清藤鶴美は昭和五十九年歿。菅原道眞の文章を纏めて勉強するに最適の書と覺ゆ。「東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ」は、小生特許廳を退任したる際に、部下百數十名に思ひを託し披露したる懐かしの歌なりき。

三十六「賀茂眞淵全集 第十二卷」

(續群書類從完成會、昭和六十二年刊、定價七千五百圓、三九一頁)

古書價格千圓也。百人一首の評釋の「宇比麻奈備」及びその改訂前の舊稿たる「百人一首古説」を収録す。

三十七「傳記叢書八五 徳富蘇峰」早川喜代次著

(大空社、平成三年刊、定價一萬八千圓、本文六九七頁)

古書價格二千五百圓也。昭和四十三年に蘇峰會より千部限定にて刊行せられたる早川氏の著作の復刻なり。小生にとりては同一内容の本は、これにて四冊目となる。

三十八「國文學史講話」藤岡作太郎著

(岩波書店、平成五年三刷、定價三千五百圓、本文三七〇頁)

古書價格四百四拾圓也。藤岡作太郎(一八七〇年生れ、一九一〇年歿、東京帝大助教授)は、鈴木大拙(佐田貞太郎)、西田幾太郎と並び「三太郎」と稱さるる秀才なりしかど、短命に終る。状態よき復刻版なり。

三十九「NHK文化セミナー歴史に學ぶ 新井白石折たく柴の記 上下」宮崎道生著

(NHK出版、平成五年刊、定價各七百五拾圓、一八八十一九九頁)

古書價格六百圓也。NHKラジオ第二放送のテキストなり。講師は、宮崎道生(一九一七年生れ、二〇〇五年歿。東京帝大國史學科卒。弘前大、岡山大、國學院大教授を歴任)。

四十「犬養孝博士揮毫 萬葉歌碑目錄」

(犬養萬葉顕彰會、平成六年刊、五五頁)

古書價格五百圓也。昭和四十二年明日香村の志貴皇子「うねめの そでふきかへす あすかかぜ みやこをとほみ いたづらにふく」の碑より、平成六年鳥取縣因幡の犬養家持

「あらたしき としのはじめの はつはるの けふふるゆきの いやしけよごと」の碑ま  
で、犬養孝博士の揮毫したる萬葉歌碑百五箇所の目録なり。

四十一 「日本精神の研究」 安岡正篤著

(致知出版社、平成十七年刊、定價二千六百圓＋税、五〇五頁)

古書價格四百圓也。大正十三年初版の一部を削り、素行、松陰、晋作、泥舟、楠木正成、  
中齋、西郷南洲、宮本武藏などの人物を追加したる昭和十二年増補改訂版をもととせり。  
全篇ルビ付きなるは貴重。

(令和六年三月四日受附)